

発行/2021年6月

編集/滋賀銀行 総合企画部
サステナブル戦略室 広報グループ

電話/077(521)2202

<https://www.shigagin.com>



LINE



Facebook



当行は、環境省認定
「エコ・ファースト企業」です。



当行は、気候変動キャンペーン
「Fun to Share」に賛同しています。



第134期

なるほど しがぎん

2020年4月 1日~2021年3月31日

Sustainability
Design Company

未来を描き、夢をかなえる

SHIGA BANK



ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

昨年来、新型コロナウイルスが猛威を振るい、社会に大きな影響を与えています。コロナ感染症拡大による資金繰り支援、お困りごとなどがございましたら、当行本支店窓口にて是非ご相談ください。

さて、2021年3月期の業績は、当期純利益(連結)が9億円減の114億円となりました。また、預金残高(譲渡性預金を含む期中平均残高)は3,457億円増の5兆2,772億円、貸出金残高(期中平均残高)は1,945億円増の3兆9,947億円となりました。政府は昨年10月、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにすると表明し、「脱炭素」の動きが加速しています。もはや脱炭素への取り組みはコストではなく、未来に向けた投資との認識が必要です。当行も滋賀県と連携して今年3月、CO₂の排出削減に特化した融資プランをつくりました。県が推進する「しがCO₂ネットゼロ」ムーブメントに賛同し、野心的なCO₂削減目標を掲げる事業者に融資する仕組みで、地域の皆さまとともに「脱炭素社会」の共創による地域社会の持続可能な発展を目指します。

また、今年9月には行政手続きのオンライン化などを進めるデジタル庁が発足する予定です。社会や経済の「デジタル化」への対応は急務であり、当行はお客さまの利便性・生産性向上や事業変革に資するデジタルサポート体制を整えました。今後とも地域全体の価値向上につながる課題解決に取り組んでまいります。

これからもより一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

取締役頭取

高橋 祥二郎



CSR憲章 [経営理念]

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。

行是
自分にきびしく
人には親切
社会につくす

地域社会との 共存共栄

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

役職員との 共存共栄

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「グリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

地球環境との 共存共栄

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

滋賀銀行データ

名称	株式会社 滋賀銀行 THE SHIGA BANK, LTD.
本店所在地	滋賀県大津市浜町1番38号
設立	1933年10月1日
総資産	7兆7,694億円
預金残高	5兆4,674億円 (譲渡性預金含む)
貸出金残高	4兆202億円
資本金	330億円
従業員	1,983人
店舗数	133カ店(うち代理店25カ店) (2021年3月31日現在)

CONTENTS

●ごあいさつ	1
●トピックス① ESGファイナンス・アワード-ジャパンで「金賞」	3
●トピックス② 女子バスケ部が全国社会人大会で準優勝	4
●トピックス③ “しがCO ₂ ネットゼロ”ムーブメントの取り組み(SLL)	5~6
●第7次中期経営計画	7~8
●個人のお客さまへ	9~10
●法人のお客さまへ	11~12
●SDGsの取り組み	13~14
●財務データ	15~22

トピックス TOPICS ①

ESGファイナンス・アワード・ ジャパンで「金賞」!



表彰式はオンラインで行われました

2月24日、第2回ESGファイナンス・アワード・ジャパン(主催:環境省)の間接金融部門(地域部門)において、最高賞となる「金賞(環境大臣賞)」を受賞しました。

同アワードは、ESG金融^(※1)の普及・拡大につながることを目的として、2019年度に創設された表彰制度です。

当行は、従来から環境対応型金融商品やサービスの開発・提供に努めるとともに、SDGs宣言や責任銀行原則^(※2)への署名、お取引先のサステナビリティ経営を促進するコンサルティングなど、他企業や他金融機関への波及性の高い活動を実践していると高く評価いただきました。

※1 ESG金融…企業分析・評価を行ううえで長期的な視点を重視し、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)情報を考慮した投資行動をとることで、企業や社会に対してESGに配慮した行動を促す取り組み。

※2 責任銀行原則…2019年9月に国連で発足した銀行向けの金融原則。社会の持続可能な繁栄が銀行業の発展につながるという認識のもと、銀行がSDGsやパリ協定などの社会的目標に沿った事業戦略を定め、金融仲介機関として主導的な役割と責任を果たしていくための枠組みを示している。

トピックス TOPICS ②

滋賀銀行女子バスケットボール部 “Lake Venus [レイクヴィーナス]” 全国社会人大会で準優勝!



準優勝に輝いたLake Venusのメンバー

2月20日から22日にかけて、静岡県浜松アリーナで「高松宮記念杯第3回全日本社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップ」が開催され、滋賀銀行女子バスケットボール部Lake Venusが過去最高成績となる準優勝に輝きました。同大会はアマチュアバスケットボール国内ナンバーワンを決める大会です。

当行の女子バスケットボール部は1976年に結成され、チームはしがぎんグループの職員で構成されています。メンバーは、各々の仕事とバスケットボールを両立させ、日々精力的に活動しています。Lake Venusは、地域貢献活動の一環として開催している、滋賀県内の小中高生を対象としたバスケットボール教室などを通じて、地域の皆さまとのつながりを深めてまいりました。これからも、「スポーツを通じて地域社会に貢献する」をスローガンに、滋賀県のスポーツ界を盛り上げてまいります。引き続き、皆さまからの暖かい応援をよろしくお願いいたします。

地域経済の脱炭素を目指して、滋賀県とコラボレーション!

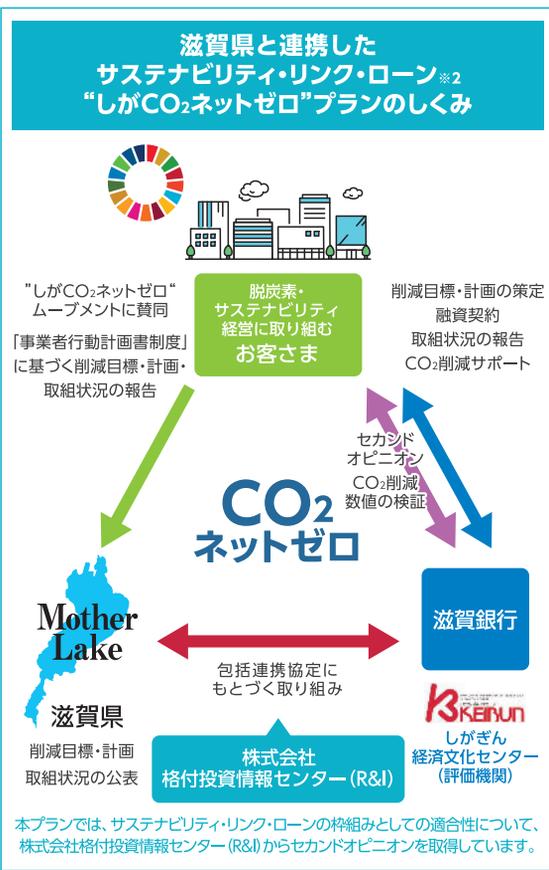
「しがぎん」サステナビリティ・リンク・ローン“しがCO₂ ネットゼロ”プラン]



三日月知事(右)と高橋頭取(左)による共同記者会見の様子

滋賀県では、SDGs未来都市として持続可能な地域社会の実現に向け、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す「しがCO₂ネットゼロ”ムーブメント^(※1)」が展開されています。3月22日、当行はムーブメントへの賛同を表明しました。その取り組みの一環として、滋賀県と連携し、3月31日より「しがぎん」サステナビリティ・リンク・ローン“しがCO₂ネットゼロ”プラン」の取り扱いを開始しました。滋賀県との包括連携協定のもと、滋賀県内に事業所を有するお客さまによる“脱炭素”の取り組みをサポートし、お客さまの企業価値向上と地域経済の“脱炭素”を目指します。

本プランでは、お客さまにCO₂削減に関連する事業挑戦目標を設定していただき、その達成状況と融資条件が連動します。事業挑戦目標とその進捗状況は、滋賀県と当行に報告していただきます。



※1:しが“CO₂ネットゼロ”ムーブメント…琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境を守り、豪雨災害等に強い持続可能な社会を次世代に引き継ぐため、県民、事業者、行政が一丸となり、2050年に滋賀県内のCO₂排出量を実質ゼロにすることを旨とする。滋賀県では、2020年1月6日に「しがCO₂ネットゼロ”ムーブメント」キックオフ宣言を実施し、賛同者を広く募っています。賛同いただける方は右記2次元バーコードをスキャンしてご確認ください。

※2:「しがぎん」サステナビリティ・リンク・ローン…お客さまがSDGsやESGに関連する事業挑戦目標を設定し、その達成度に貸付条件が連動する仕組みの融資商品。貸付条件と連動させることで目標達成への動機付けを促し、お客さまのサステナビリティ経営を後押しします。



第7次中期経営計画

メインテーマ

「未来を描き、夢をかなえる」

「未来を描き、夢をかなえる」がメインテーマの第7次中期経営計画は、今年4月から3年目に入りました。挑戦指標については、持続可能な地域社会の実現に向けて取り組みをさらに加速すべく、積み上げを行いました。これからもお客さまや地域の課題解決を起点とする行動に努めてまいります。

～持続可能な社会に向けたアクションの道標～

サステナビリティビジョン(長期ビジョン)

地域の明るい未来を実現し、当行が果たすべき責任と役割を認識するための長期的なビジョンを策定しています。



※詳細は当行ホームページにて掲載しています。

第7次中期経営計画(2019年4月～2024年3月)

概要

目指す姿

「Sustainability Design Company」
～「三方よし」から「共存共栄」の実現へ～

メインテーマ

未来を描き、夢をかなえる
～お客さま・地域社会・役職員の未来をともに～

未来創造 挑戦項目

SDGsを
ビジネスへ

地域社会の
生産性向上

課題解決型金融
情報サービス業への進化

持続可能な収益
構造への転換

考働改革
(考え方改革、働き方改革)

経営基盤の充実
(経営理念・人材・ガバナンス・自己資本・システム)

挑戦指標

挑戦指標	2022年3月計画	2024年3月計画	
SD目標*	Sustainable Development 推進投資	(新規投資総額累計) 7,000億円	
	地域顧客の価値向上サポート (コンサルティング相談件数)	年間1,500件	年間2,000件
	地域顧客の資産形成サポート (預り資産残高「投資信託+金融商品仲介」)	2,200億円	3,000億円
	温室効果ガス排出量削減(%) (2013年度比較の削減率)		50%削減
	SDGs・金融リテラシーの普及・向上活動 次世代人材の育成活動		(研修等の実施人数累計)15,000人
収益指標	親会社株主に帰属する当期純利益(連結)	最終年度 100億円以上	
	顧客向けサービス業務利益	20億円	30億円

(※)SD(Sustainable Development)目標…地域の持続的発展につなげる目標

長期的挑戦指標	長期的指標
ROE(連結)	5%以上
OHR	65%未満



生涯にわたって「頼れる しがぎん」へ

～人生100年時代のパートナーとして～ お客さまの資産形成をサポート

お客さまのライフプランに応じた適切な商品・サービスの提供に努めています。

10歳代	20歳代	30～40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以降
	就職	結婚／子育て／マイホーム		セカンドライフ	相続
ジュニアNISA	積立型商品 (iDeCo(個人型DC)、NISA(一般、つみたて)、投信積立、平準払型保険)			退職金スペシャルプラン 退職金専用サインプラン	贈与 遺言／相続
				年金定期	信託
資産運用アドバイザー・パーソナルでの資産運用相談					
保険コンサルティング(各種保険の見直し、医療保険・がん保険の取り扱い)					

『しがぎん』で資産形成

豊富なラインナップからお客さまのニーズに合った質の高い提案と、アフターフォローを行います。

来店不要!便利な アプリをご活用ください



ご来店不要で口座開設(当行に口座をお持ちの方は除きます)ができる「滋賀銀行アプリ」や、ス

スマートフォンがあれば明細情報がいつでも確認できる「滋賀銀行デジタル通帳」等のアプリを提供しています。

いつでも・どこでも・簡単に、手数料無料でご利用いただけますので、ぜひご活用ください。

※ご利用にかかる通信費用はお客さまのご負担となります。

さまざまなチャンネルで資産運用をお手伝い!

将来の資産づくりをお手伝いするため、当行ではお客さまのニーズに合わせた多様な商品ラインナップを取り揃えています。休日相談店舗パーソナルでは、資産運用の専門スタッフがお客さま一人おひとりのライフプランやお悩みに沿ってご相談を承ります。企業の従業員の皆さまへの金融教育のお手伝いも実施しています。

各支店・出張所でも担当者が資産運用のご相談を承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

休日相談店舗 土・日・祝日も営業(9:00～17:00)

大津	瀬田駅前	南草津	草津
守山	八幡駅前	大藪	

▼ご予約について



お客さまの声を大切にしています

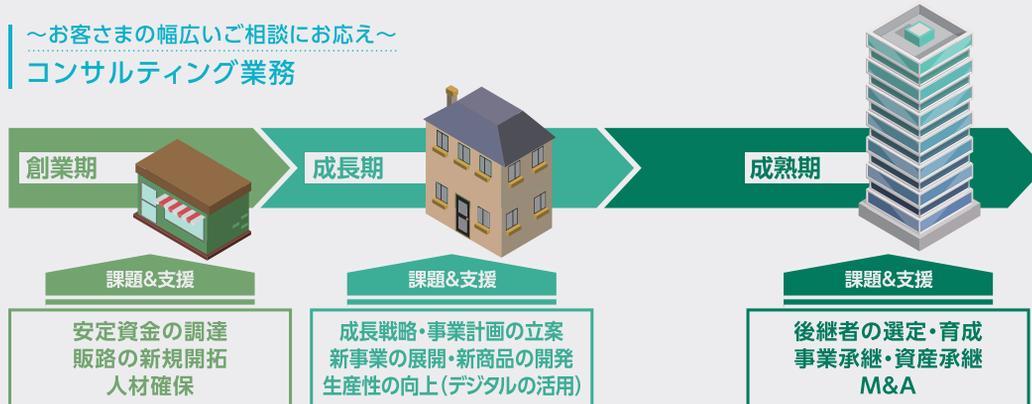
お客さまからいただくご意見は、当行が発展していくための大切な“財産”であるとの考えで、年に一度、郵送による「お客さまアンケート」を実施し、商品・サービスの改善に取り組んでいます。



企業のライフステージに 応じた 最適なソリューションを 提供します



～お客さまの幅広いご相談にお応え～
コンサルティング業務



中小企業診断士や1級ファイナンシャル・プランニング技能士等の資格を持つ行員が、外部機関や専門家と連携し、企業のライフステージに応じたさまざまな課題解決をお手伝いします。

地域資源の魅力を発信 クラウドファンディング

クラウドファンディングの手法を用いて、地域ブランドの魅力向上や地域資源を活用した新商品・新サービスの提供に取り組む事業者をサポートしています。

クラウドファンディングを活用することで、資金調達に加え、商品・サービスの新たな顧客獲得やテストマーケティングの実施など、さまざまな効果が期待できます。コロナ禍における販路拡大のためのツールとして、ますますニーズが高まっています。



SDGsコンサルティング

「SDGsを経営に取り入れるためのサポートをしてほしい」というご要望にお応えするため、「SDGsコンサルティング」を行っています。

SDGsの手引書である「SDG Compass」に示された5ステップ(SDGsの理解・優先課題の決定・目標の設定・経営への統合・報告とコミュニケーション)を円滑に進めていただけるようサポートしています。

お客さまの夢をつなぐ 事業承継・M&A

年々深刻化する事業承継問題の解決には、「早めの着手」が重要です。当行では、専門的な知見や幅広いネットワークを有する経験豊富な専門スタッフが、お客さまのニーズに応じて迅速丁寧に対応いたします。少しでもお悩みをお持ちの方は、ぜひ早めにご相談ください。



地域社会の未来のために、 SDGsの普及・向上に取り組んでいます。

SDGs教育

持続可能な社会を共創する人材を育てる



長浜北星高校での講義の様子

地域の子どもたちに社会的課題への関心を高めてもらうことを目的に、地域の学校等へ行員が出向き、講義を実施しています。SDGsの背景やフェアトレードの取り組みなどを説明し、「日頃の生活習慣を持続可能なスタイルに見直したい」などの感想をいただきました。

地域の福祉向上を願って

しがぎん福祉基金から助成金を贈呈

社会福祉法人しがぎん福祉基金は、2021年度の助成先として6団体を決定し、総額684万円を贈呈しました。同基金は、地域福祉の向上を願い、滋賀銀行創立50周年記念事業として1984年に設立。滋賀県内で取り組まれている福祉の実験的・開拓的な取り組みに対して幅広く助成をしており、これまでの助成は累計で504件、総額3億8,190万円となりました。

第24回環境コミュニケーション大賞

環境報告部門「優良賞」

2月17日、第24回環境コミュニケーション大賞（主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム）を受賞しました。優れた環境報告を表彰しているもので、第24回には環境報告部門147点、環境経営レポート部門114点の応募があり、当行の統合報告書やCSRレポートの内容を高く評価いただきました。これからも透明でわかりやすい情報提供に努めてまいります。



SDGsをより身近に“自分ごと”で考える

SDGsの取り組み

SDGsや地域の社会的課題を「自分ごと」として捉え、自ら考え行動できる人材を育成するための取り組みを行っています。社会問題となっているプラスチックごみへの対策では、店頭でお渡ししているビニール袋を紙袋に変更したり、本店敷地内の自動販売機でのペットボトル飲料の販売を取りやめました。これからも一つひとつ取り組みを進めてまいります。



紙袋の素材はFSC認証を取得しています



お客さまと地域の成長のために、 ともに歩んでまいります

個人・法人ともに順調に増加

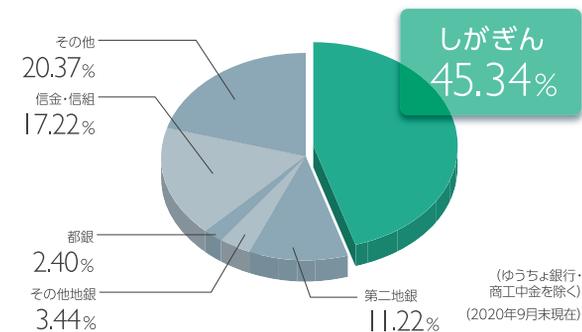
預金等

当期も地域の皆さまからのご支持を受けて、期中平均残高は前期比3,457億円増加し、5兆2,772億円と順調に推移しています。うち、コアとなる個人預金の期中平均残高は3兆7,824億円で同2,027億円の増加となりました。

預金等（譲渡性預金含む）期中平均残高



預金残高「滋賀県内シェア」



※小数点第3位以下四捨五入

事業性・消費者向け・地方公共団体向け貸出ともに増加

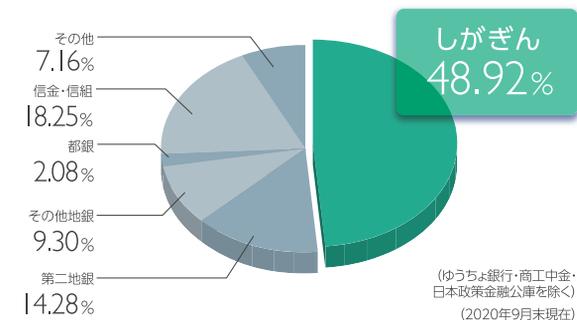
貸出金

当期は、事業性貸出・消費者向け貸出・地方公共団体向け貸出がそれぞれ増加し、期中平均残高は3兆9,947億円となりました。前期比1,945億円の増加となりました。

貸出金 期中平均残高



貸出金残高「滋賀県内シェア」



※小数点第3位以下四捨五入



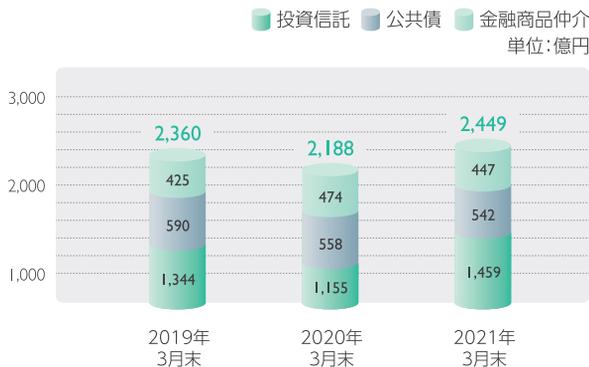
資産の運用も お任せください

多様な資産運用ニーズを親身にサポート

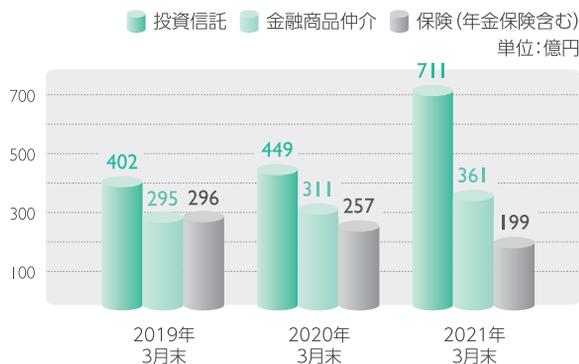
預り資産 残高

投資信託、公共債等の預り資産残高(取扱保険料累計額含まず)は2,449億円で、前期末比260億円の増加、うち個人の預り資産残高は2,232億円で、前期末比226億円の増加となりました。期中販売額は投資信託が262億円増加の711億円、保険が57億円減少の199億円となりました。

預り資産残高



投資信託・保険期中販売額



格付は安心の 「Aクラス」を確保

2つの格付機関が「A+」と高い評価

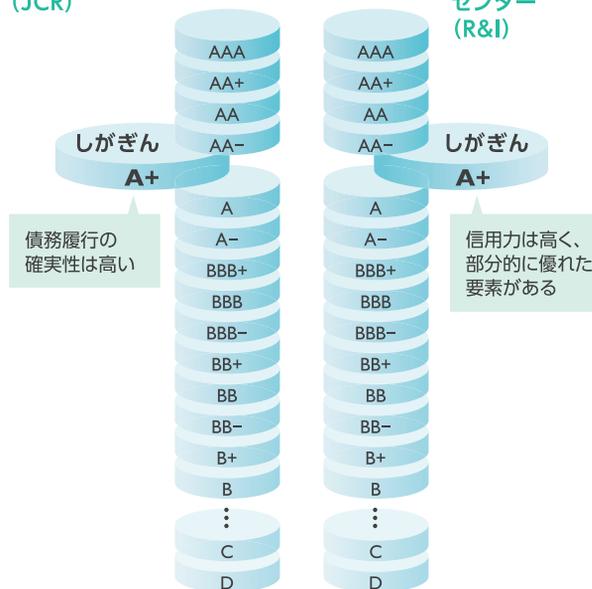
格付

「大切なお金は、安心できる銀行に預けたい」。格付はお客さまに安心して銀行をお選びいただくひとつの目安となる外部評価です。

当行は、2つの格付機関からともに「A+」を取得し、信用度について高い評価をいただいています。

日本格付研究所 (JCR)

格付投資情報センター (R&I)



用語説明

格付

銀行預金の元金支払の確実性や安全性について、利害関係のない第三者が判断してその結果を簡潔な記号で表したものです。銀行を判断するうえで、安全性・信用度を客観的に評価した重要な指標のひとつです。



これからも「安全」「健全」な経営に努めます

自己資本比率も国際統一基準を大きくクリア

自己資本比率 (連結)

自己資本比率は、銀行の安全性、健全性を測る指標のひとつです。当行のように海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準を満たしていなければなりません。

当行の自己資本比率は17.19%（バーゼルⅢ基準、2021年3月末、連結ベース）と国際統一基準を大きくクリアしています。

2021年3月末

	実績	最低所要比率
連結 総自己資本比率	17.19%	8.0%以上
同 Tier1比率	17.18%	6.0%以上
同 普通株式等Tier1比率	17.18%	4.5%以上

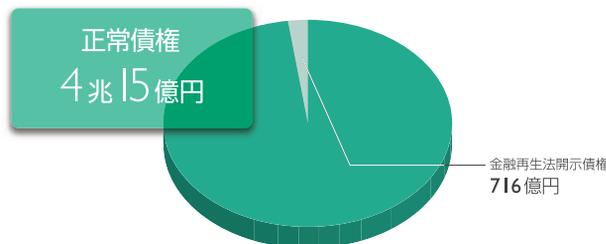
※バーゼルⅢ基準による自己資本比率を算出しております。

(ご参考:自己資本比率推移)



不良債権の状況

当行の金融再生法に基づく開示債権の合計は716億円で前期末比176億円の増加、総与信に占める比率は1.75%で同0.39%の上昇となりました。また、貸倒引当金や担保などによる保全率は67.97%で同2.08%の低下となりました。



金融再生法開示債権



用語説明

不良債権比率

貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみる指標のひとつになります。

用語説明

自己資本比率

銀行の安全性、健全性を判断する基準のひとつに、自己資本比率があります。海外に支店を有する国際統一基準行では新たな自己資本比率規制（バーゼルⅢ）が2013年3月期決算から段階的に導入され、各最低所要比率を満たす必要があります。

お知らせします、 しがぎんの業績



業績ハイライト(単体)

- 預金等利息をはじめとする資金調達費用の減少により、資金利益は前期比9億円増加しました。役員取引等利益は前期比10億円増加、その他業務利益は同16億円減少し、業務粗利益は同3億円増益の539億円となりました。
- 経費は前期比1億円増加し、実質業務純益は同2億円増益の132億円となりました。
- 臨時損益は、全体で前期比24億円減少し、経常利益は同21億円の減益となりました。また、法人税等合計は前期比35億円減少しました。
- これらの結果、当期純利益は113億円となり前期比5億円の減益となりました。

業務粗利益

銀行本来の業務(貸出業務、為替業務、有価証券運用など)から得た利益です。

単位:億円



業務純益

一般企業でいう営業利益にあたります。
 $業務純益 = 業務粗利益 - 経費(人件費、物件費など) - 一般貸倒引当金繰入額$ 単位:億円



経常利益

業務純益から株式の売却損益や不良債権処理に関わる費用などをプラス・マイナスした利益です。

単位:億円



当期純利益

経常利益から法人税や事業税等を差し引いた最終的な当期の利益です。

単位:億円

